

序文

村上春樹(1949-)は、周知の通り、1979年に『風の歌を聴け』を発表し、文壇に初登場した。40年間、小説創作をし続けてきているため、村上春樹は現在、世界的に名をよく知られている日本人作家の一人となり、2010年代から10月になるたびに、ノーベル文学賞を受賞するかどうかで、世界のマスコミの注目を大いに浴びている。

村上春樹の海外への紹介だが、1985年8月に『新書月刊』に掲載された頼明珠訳の3つの短篇「1980年超級市場式的生活」、「街的幻影」、「鏡子裡的晚霞」が村上春樹作品として初めて台湾に紹介され、村上春樹作品初の海外進出として世界的記録を残している。また、台湾のロック界で代表的な歌手伍佰は好きな小説『ノルウェーの森』をイメージして、1997年に「ノルウェーの森」を作詞、作曲し、世界を風靡している。

そして、2011年8月に村上春樹ブームの最中、論者は「村上春樹研究室」を設置した。その成果を大学から認められて、3年後の2014年8月に淡江大学で世界初の唯一な「村上春樹研究センター」を立ち上げた。国境と民族を越えて受容されている村上春樹に関連した研究のグローバルな学術交流と研究成果を図り、語学、文学、教育学、文化人類学、社会学、経営学、翻訳学、心理学、比較文学、比較文化、文芸学などの様々な視野から、言わば、「村上春樹学」構築を目標に出来た研究センターである。それを目指して本格的な学術活動を行い、年に一回の国

際シンポジウムを開催、年に一冊の研究叢書を刊行というペースで歩み続けている。

今日まで開催した9回のシンポジウムを下記に掲げる。

1. 「2012年第1回村上春樹国際シンポジウム」(2012.6.23 淡江大学にて)
2. 「2013年第2回村上春樹国際シンポジウム」(メインテーマ「村上春樹文学における「通過儀礼」(initiation)」2013.5.5 淡江大学にて)
3. 「2014年第3回村上春樹国際シンポジウム」(メインテーマ「村上春樹文学における「メディウム」(medium)」2014.6.21 淡江大学にて)
4. 「2015年第4回村上春樹国際シンポジウム」(メインテーマ「村上春樹文学における「両義性」(pharmakon)」2015.7.25-27 日本北九州市国際会議場にて)
5. 「2016年第5回村上春樹国際シンポジウム」(メインテーマ「村上春樹文学における「秩序」(order)」2016.5.28-29 淡江大学にて)
6. 「2017年第6回村上春樹国際シンポジウム」(メインテーマ「村上春樹文学における「魅惑」(charm)」2017.7.8-9。日本同志社大学にて)
7. 「2018年第7回村上春樹国際シンポジウム」(メインテーマ「村上春樹文学における「共鳴」(sympathy)」2018年5.26-27 淡江大学にて)
8. 「2019年第8回村上春樹国際シンポジウム」(メインテーマ「村上春樹文学における「移動」(movement)」

2019年7.20-21 日本北海道大学にて)

9. 「2020年第9回村上春樹国際シンポジウム」(メインテーマ「村上春樹文学における「命運」(fate)」2020年7.4-5 淡江大学にて)

村上春樹研究センター設立後、毎年行ってきた国際シンポジウムでの基調講演、研究発表(査読済み)を纏めて村上春樹叢書として刊行してきている。その刊行一覧は以下の通りである。

1. 森正人監修、小森陽一・曾秋桂編集(2015)『村上春樹研究叢書第一輯村上春樹におけるメディウム—20世紀篇』淡江大学出版中心
2. 森正人監修、小森陽一・曾秋桂編集(2015)『村上春樹研究叢書第二輯村上春樹におけるメディウム—21世紀篇』淡江大学出版中心
3. 森正人監修、小森陽一・曾秋桂編集(2016)『村上春樹研究叢書第三輯村上春樹文学における「両義性」』淡江大学出版中心
4. 沼野充義監修、曾秋桂編集(2017)『村上春樹研究叢書第四輯村上春樹文学における「秩序」』淡江大学出版中心
5. 沼野充義監修、曾秋桂編集(2018)『村上春樹研究叢書第五輯村上春樹文学における「魅惑」』淡江大学出版中心
6. 中村三春監修、曾秋桂編集(2019)『村上春樹研究叢書第六輯村上春樹文学における「共鳴」』淡江大学出版中心

